

事業報告書

自 2010年4月1日  
至 2011年3月31日

社団法人 京都ボクシング協会

# 京都ボランティア協会 2010年度事業報告

目次:

## I 事業

1.【ボランティアコーディネート事業】	…1ページ	【別添資料1】
2.【援助・交流事業】	…2ページ	【別添資料2】
3.【広報事業】	…3ページ	
4.【研修事業】	…3ページ	
5.【研究事業】	…4ページ	
6.【地域密着型外部評価、 介護・福祉サービス第三者評価、介護サービス情報の公表調査】	…5ページ	【別添資料3】
7.【企業・労働組合の社会貢献活動の推進】	…5ページ	
8.【ボランティア団体・NPO団体、当事者支援事業】	…6ページ	

## II 組織・運営

1.【組織・運営体制整備】	…6ページ
---------------	-------

## I 事業

### 【1. ボランティアコーディネート事業】

事業項目	継・新	開催時期	事業目的	事業内容	決算(千円)	成果・課題	改善策
ボランティアコーディネート相談の実施	継続	通年          年4回程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアを求め る人、ボランティア活 動を求める人の需給 調整を行う。</li> <li>・生活・福祉ニーズの 把握と分析</li> <li>・ボランティア登録者 の継続と増加をはか る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ボランティア相談の実施(団体活性化などの相 談、ボランティア保険相談、講師派遣等)</li> <li>②ケース検討・情報交換会議の定例化</li> <li>③関係機関情報交換会議への参加</li> <li>④ボランティア交流会の実施</li> <li>⑤「きょうボラ」の発行(季刊・速報版)</li> <li>⑥大学等への事業紹介活動の実施(年間計画化)</li> <li>⑦ボランティア登録者の増員</li> </ul>	収入 15  支出 1,520	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアコーディネート相談等対応の実施/2306件、ボ ランティア相談の実施(団体活性化などの相談、ボランティア 保険相談、講師派遣等)/310件</li> <li>→ボランティア依頼者のリピーター登場</li> <li>→相談や依頼等記録を残せなかった(数字に反映できず)</li> <li>・ケース検討・情報交換会議の定例化/局内で定例化できず</li> <li>・関係機関情報交換会議への参加/0回</li> <li>→ケアマネや相談員とのつながりはできています。</li> <li>・ボランティア登録者交流会 ねこのてさろん(会員・登録Vと の交流)実施</li> <li>・「きょうボラ」の5回発行各2000枚 ボランタスと共に発送</li> <li>・大学等への事業紹介活動の実施/立命、華頂女子高</li> <li>・ボランティア登録者の増員/新規登録者の減少となる 数字の詳細については【別添資料1】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;ボランティア登録者増&gt;</li> <li>・ねこのてさろん等との合同で 講座などを開催し、身近なボラ ンティア活動紹介(グループ含 む)</li> <li>・ボランティア登録会、あるいは 相談会の開催。活動により「人 と会う楽しさ」をボランティア依 頼者や活動するボランティアの 生の声を届ける機会を増やす</li> </ul>

新規			⑧ボランティアコーディネート事業体制の整備		在宅生活を支えるボランティアを必要とされる意義の再確認と「求められるボランティア」と「したいボランティア活動」双方にこたえられるコーディネートの困難さがますます出てきたこと。
----	--	--	-----------------------	--	-----------------------------------------------------------------------------------------

## 【2. 援助・交流事業】

事業項目	継・新	開催時期	事業目的	事業内容	決算(千円)	成果	課題	改善策
第4回きょうボラふれあい祭開催	継続	4月～  開催時期・ 場所未定	・ボランティアスタッフ、関係団体、企業他との出会い、ネットワークを築く機会になるよう、当日参加はもとより企画、運営を協働する。	①ボランティアスタッフ学習会の開催 ②実行委員会の設置(企画・運営) ③祭のホームページの管理 ④バザー物品、抽選物品の確保  ⑤広報スタッフの配置  ⑥きょうボラふれあい祭の開催	収入 2,046  支出 2,514	①学習会開催できず  ②委員会・準備委員会・振り返りの会合計13回  ボランティア作成・管理で各担当(市場等)をアピール・広報する。  ④景品・バザーの物品が少なく、特にバザーが品薄であった。黄色いレシートキャンペーン活動でのレシート金額から得られた食料品や日用雑貨の景品は毎年有難い。  広報ボランティアスタッフが少なく、ちらし作製はインターンやパンフレット担当スタッフが携ってくれた。他の団体・グループのイベントに参加しながら祭のチラシを配布した。入場者数約1,400人。協賛32、後援15。参加団体:ステージ14、市場27、子ども1、準備段階ボランティア延べ150人。  祭の記録・報告書の作成・ボランティア参加によりDVDの作成と共感・後援・参加団体等への配布。	事務的作業に終始し学習機会がとりづらかった  ● 助成金等(準不同、敬称略) ※助成金 等(順不同、敬称略) 京都府「地域力再生」 322千円 京都府共同募金会 100千円 京都新聞社会福祉事業団 40千円 経糸の糸 200千円 黄色レシート贈呈金 80千円 バザー・協力抽選券売上 724千円 寄付金 22千円  祭収支報告(単位:千円)  収入計※ 1,488 支出 会場費 294 消耗品 180 通信費 130 リース代 18 広報費 271 交通費 100 景品・材料 95 打上会・交際費人件費 131 その他 19 支出計 1283 収益 205	学習会の必要性だけでなく実行委員メンバーの興味から出てくるテーマを話し合う 詳細については【別添資料2】
企画等でのボランティア 活動者募集中								
サロン活動「ねこのてさろん」の運営	継続	通年	・多様な興味、関心を持つ人々との交流を確保するため多様なメニューを確保する。	①単発活動企画の年間計画化 ②居場所機能の充実 ③既存活動グループの自主運営化 ④新規グループの開拓		お花見・環境整備(蛍鑑賞)・夏祭り(でてこいランド)・バーベキュー交流会・きょうボラ祭・料理体験&交流会等で多数の参加者があり、老若男女・障がい者他と交流ができて楽しめた。アウトドア企画に人気集中する。(ボラタス掲載)	ボランティアビューロでの「ねこのてさろん」の企画・参加は、社会人が多く既存活動グループでの自主運営は難しい。インドア企画リサーチ、充実と参加者募集方法(広報)に課題がある。人数が少ないとゲーム等が楽しめない。	「ねこのてさろん」の時間帯にミニ講座や体験講座等を設け、一般市民向け広報に力を注ぎ、間口を広くし、参加人数を拡大。広報活動を作るためにも早期準備・企画する。そのためのスタッフ充実。

ウエスグループへの支援	継続	通年 月2回 第2、4木曜	・活動歴25年近いグループであり、協会活動の支援者である。メンバーの高齢化により、活動の継続を目的に支援する。	①ウエス作業支援(ウエス販売含む) ②ミニバザーの実施支援 ③ウエスグループ&「よりあい」の場の充実 ④ウエスグループスタッフによる諸団体の啓発活動への参加・協力・支援(共同募金他)	月2回のウエス作業の他に青少年街頭活動等が積極的に行われている。作業場所である大徳寺ボランティア協会分室ではご近所との交流もされ、「よりあい」の場も充実している。	ウエスグループのボランティアメンバーを拡大する。	バザー物品の収集方法の検討。古着等中古品は見直さなければ在庫増大。一部を除き新品資料に限定するかを検討する。
-------------	----	---------------------	---------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------	--------------------------	--------------------------------------------------------

### 【3.広報事業】

事業項目	継・新	開催時期	事業目的	事業内容	決算(千円)	成果	課題	改善策
「ボランティア」他広報事業	継続	年4～5回	「ボランティア」他の紙媒体による情報提供、並びにホームページにて情報の公表を行い会員ほかへの広報活動を行う。	①「ボランティア」の発行(年4～5回) ②「ボランティア」のDVD化 ③ホームページ管理 ④「季刊ボランティアきょうと」発行支援	収入 0 支出 532	ボランティア150号～153号発行。2010年度からボランティアコーディネート欄を追加した。新しいボランティアの寄稿を募った。	「ボランティア」のDVD化が未執行。「季刊ボランティア」は今年度休止。	「季刊ボラ」の従来の内容をボランティアに取り入れる検討をする。ホームページを利用して広報活動を充実させる。

### 【4.研修事業】

事業項目	継・新	開催時期	事業目的	事業内容	決算(千円)	成果	課題	改善策
農村集落とのつながりを共創する一都会の私たちにできること	継続	8月	地域の過疎化や高齢化等からくる問題を探ると共に、地域の文化や自然、町おこし等を考える。	①「第3回きょうボラふれあい祭」でつながりのできた美山福居地区との交流継続を図る。②地域の過疎化や高齢化等からくる問題を探り、地域の文化や自然、町おこし等を考える機会をもつ。	収入 136 支出 89	①美山との交流 ②未執行	①祭を通じて美山福居地区と僅かな関係が継続したが、昨年度より交流人数が減少。	②地域課題は農村だけではなく、農村集落に限定する必要があったかどうか見直す必要がある。身近な地域に目を向けて交流を図ることで見えてくるものを探る。
記録手法・ITによる情報発信講座	継続	連続3日間	・活動記録技法の一つとして学習する。	パソコン講座—ボランティアグループ、NPO団体、事業所などを対象に実施する。多くの写真を20分ぐらいにまとめ、ナレーションや音楽、字幕を入れ見やすい記録の作り方を学ぶ。		未執行 パソコン講座—ボランティアグループ、NPO団体、事業所などを対象に募集をしたが参加人数が集まらず未執行。	参加者にパソコン持参という条件をつけると参加人数が少ない。スクリーン・プロジェクターを利用して講習等考えていく。	・活動記録技法の一つとして学習する方法(フォトストーリー)を2年間連続で開催したが、参加者が集まらない。2011年広報活動範囲を拡大し新しい技法を取り入れた講座にする。
障がい者ガイドヘルパー養成講習	継続	連続3日間	・障がい者対象介護技術学習機会の提供。	国基準に即した障がい者介護にかかる研修、終了後京都市承認書を発行する。(知的・全身性障がい)		未執行(全身性障がい者ガイドヘルパー着手中)	昨年度から京都市が「簡易ヘルパー養成研修」を開始、研修時間や受講料が安価となり参加者が呼び込めるかどうか。障害者施策の変化等情報に対応した講座作りの必要性がある。	従来の講座の中に現状の課題や講座には含まれていない内容も網羅して充実を図る。
華頂高等学校ボランティア講座への講師派遣	継続	通年・2クラス	・講座の企画・運営をコーディネートする。	高等学校3年生を対象にボランティア講座を担当。ボランティア活動を行っている個人・団体を招き活動紹介を行い、ボランティア学習に供する。		通年授業に14団体、延べ31人の関係者の参加を得てボランティア活動の実際を学び、並びに障害をもつ当事者から障害のことや、理解を得たい支援等の話が聞けた。授業後は感想文を求め理解状況を把握した。進路後の参考にしたい等と好評であった。2011年度から1年生の授業の担当の依頼を得た。	夏休み等実際にボランティア活動の参加を勧めたが、3年生であり補習等で参加に繋がりがたい。	通年授業は担当講師に負担が多く、複数メンバーで取り組むことを検討したい。

高齢者・障がい者・こども分野講座実施	継続	2月・3月	・各々の領域の現場で当面している課題を現場から学ぶ。	各領域の課題を学び、もってボランティアグループ、NPO団体との連携を図る。		「音楽療法つなごに」ミニ講座開催。「歌とお話(前例がなければつくればいい)」の講座開催]参加人数延べ40人。ねこのてさろんの時間を利用して開催できた。	広報活動が弱い。会員やボランティアの求めている企画の調査とともに、社会が求めている「講座」を検討する。	広報活動を充実させる。企画内容や演目についてはボラタスの広報でアンケートを採る。
福祉史跡&事跡ガイド養成講座実施	新規	12月・2月	・京都の福祉史跡&事跡を学習し市民に広く紹介する。	既存の冊子「福祉史跡&事跡」を中心に説明・案内できるガイドの養成を図る。		旅行会社トップツアーとの取り組みで2010年12月・2011年2月に他府県の福祉関係グループは史跡ガイドをした。	現在、史跡ガイド担当者は2名。2011年度は福祉史跡&事跡ガイド養成講座の実施をする。	福祉史跡&事跡ガイド養成講座の実施をする。
ボランティアコーディネート講座	新規	未定	・地域で生じている様々な生活・福祉ニーズを理解する。	人と地域を結ぶコーディネーターの役割を学ぶ。		未執行	地域でボランティアコーディネーター(調整役)が求められているのか、事前調査ができなかった。協会自体が地域とのつながりが弱い。	率先的地域活動事例などを学び、実際実務に関するコーディネーター等から情報収集する。

## 【5. 研究事業】

事業項目	継・新	開催時期	事業目的	事業内容	決算(千円)	成果	課題	改善策
京都の農村集落とのつながりを共創する	継続	調査準備	・農村集落の課題について学ぶ。	選定した地域に対し、検討チームをつくり、課題等の調査・検討を行う。	収入 39 支出 0	未執行	検討チーム作りができなかった。	地域課題は農村だけではなく、農村集落に限定する必要があったかどうか見直す必要がある。
学生インターンシップについて	継続	調査	・多様な人材との活動を目指し、特に学生層との協働、参加を図る。	関連情報の収集と、プログラム化。		関連情報の収集。立命館大学ボランティアコーディネーター養成研修2名受入・龍谷大学短期大学部実習生1名受入。ボランティアグループ運営についての提案があり次年度へ活かす可能性がある。	学校側との密な連絡調整。多様な人材向けの実習内容かどうかの検討。	多様な人材の受入内容のプログラム開発、受入の工夫と充実。
施設における技術ボランティアコーディネートの実態について	継続	準備期間	・担当者向けコーディネート学習	最近増加傾向にある技術系ボランティアの施設における効果的な参加について、施設コーディネーターと検討機会を設ける。活動中のボランティアのアンケートもあわせて行う。		未執行	情報収集できず、実際に「技術系ボランティア」が増加しているのかさえ検討できなかった。	施設系へのボランティア紹介等はボラセン初め他センターが行っていることでもあり、遅れて参加する意義があるかどうか見直す必要がある。社協等との情報交換による情報収集。

## 【6. 地域密着型外部評価、介護・福祉サービス第三者評価、介護サービス情報の公表調査】

事業項目	継・新	開催時期	事業目的	事業内容	決算(千円)	成果	課題	改善策
地域密着型外部評価事業の充実	継続	通年	・質の高い評価を目指す。 ・公平・公正な調査を目指す。	・評価員の増員 ・評価者の研修体制の充実(別添資料:3)	収入 4,850 支出 4,406	前年度より3事業所増となり、計53事業所となる。評価員も8名が養成研修を修了して計14名となり、質の高い調査員が確保できた。	・事務量に比して利益率が低すぎる。改善を要する。 ・主任評価員の育成が急務であるため、協会独自の研修を強化し、受講を必須とする。 ・審査会の運営及び人員も含めて再検討する。	事業推進のための[強化プロジェクトチーム]を立ち上げ、営業・研修・報酬・受審料など総合的に見直しを図る。
介護サービス第三者評価事業の充実	継続	通年	・地域における社会福祉の推進 介護や福祉サービスの質を高め、広く市民の介護・福祉サービスの選択に資することに携わる活動です。介護保険制度や事業に関心と、理解を深めること。事業の重要性に鑑み、引き続き取り組んでいく。		収入 2,360 支出 1,987	受診件数が前年度より1事業所増になり、9事業所となる。登録評価員は26名。		事業所(大法人など)、支援機構(府社協が事務局)に対して、協会の理事、審査委員、事務局などが一体となり、取り組む。
福祉サービス第三者評価事業の充実	継続	通年	・協会の評価事業を実施する目的は、単なる収益のみでなく、ボランティアの理念として、一般に「自発性(自由意志)」「公益性(公共性)」「創造性」「先駆性」「社会開発性」「継続性」な活動を展開するところに特色がある。利用者との関わりの中で得た経験と知識は他の組織にはない独自のものである。標準化された評価に加えてボランティアの独創的な視点からの助言や情報提供ができる。ボランティア活動の事業を支えるための重要な財源でもある。公益法人化に伴いさらに公益性のあるに事業として調査員にも協力を求めている。 ※調査員(者)は全員が協会会員で協会の事業を支援している。		収入 7,192 支出 5,748	前年度より4事業所増になり、6事業所となる。受審料が高い福祉サービスが貢献、大幅増となる。登録評価員は21名。		平成23年度より制度そのものは残るが、調査情報がなくなり、調査機関としては、実質廃止同然である。
介護サービス情報の公表調査事業の充実	継続	通年				調査員登録者は32名であるが、実質稼働は15名で当初の見込み通り300事業所を実施しました。		
評価・調査事業の管理・運営体制の整備	継続	通年	・効率的な事務運営	・評価・調査機関としての事務体制の整備				

※確認事項 評価・調査事業に携わっている調査員(者)は、当協会の会員に加入していただいています。もし現在未加入の方は、事務局にご連絡下さいますようお願い致します。

## 【7. 企業・労働組合の社会貢献活動の推進】

事業項目	継・新	開催時期	事業目的	事業内容	成果	課題	改善策
企業・労働組合との協働と交流	継続	通年	・祭等のイベントへの参画・参加にてボランティア活動体験をする。	協会事業にかかわる企画に参画し、多様なボランティアとの協働作業を通し地域のニーズを理解し、社会貢献のあり方・意義を学ぶ機会を得る。一方協会からはボランティア活動紹介や、講師派遣等にて支援する。	祭協賛団体の継続参加。	協賛団体ボランティア参加の減少。 企業側ニーズの情報収集不足。	祭に特化せずボランティア情報等を流せるような工夫。あるいは企業の社会貢献活動事例紹介など。
	継続	通年	北大路ビブレ幸せの黄色いレシートキャンペーン	毎月11日10時から18時まで北大路ビブレ食品売場近くで㈱イオンが社会貢献活動を目的に実施(開始2007年)	2010年度は合計121,400円をギフトカードで受領(2011. 4. 11)(第5回きょうぼうふれあい祭抽選券景品に60,000円と協会事務用品に61,400円に使用予定)。	キャンペーンの為のボランティア協会参加延べ48名。気軽に参加できるボランティア活動の一つであるが、現在ボランティアが集まらず職員で対応している為、13時～15時の昼間の時間帯の参加がいない。	一人でも多くのボランティアを求めていく。一般市民への協会活動の広報・啓発機会と捉れ、地道な活動を行なう。
社会貢献推薦者表彰報告				当協会の大原加津巳氏(協会のボランティアスタッフ)と田中加代子氏(誕生日ありがとう京都友の会のボランティア)が障がい者等の支援活動に対し、その功績が認められ京都市社会福祉事業奉仕活動ボランティア部門において表彰された。	今後に向けて地道なボランティア活動を継続してこられた方達の活動をアピールしていくことは協会の使命である。先進的活動実践には常に関心を寄せ、情報収集していきたい。 ※身近な場所で、継続して福祉等活動をされている方の情報をご提供ください。		

【8. ボランティア団体・NPO団体、当事者支援事業】→コーディネートや援助交流事業(再掲)

事業項目	継・新	開催時期	事業目的	事業内容	決算(千円)	成果	課題	改善策
交流機会の確保	継続	通年	・協会が保有する資源・情報の提供による支援	①交流機会の確保 ②りすの会等への活動支援 ③ボランティア団体・NPO団体・当事者に対する相談活動の実施 ④ボランティア相談の実施		登録団体行事への参加やボランティア紹介。	情報提供範囲が狭い。	ボランティア団体等を紹介できるような企画(体験講座的なものを「ねこのてさろん」で開催するなど)をし、広報含め広く呼びかけ人集めの工夫をする。

II 組織・運営

【1. 組織・運営体制整備】

事業項目	継・新	開催時期	事業目的	事業内容	事業成果・今後に向けて
組織基盤の強化	継続	通年	・会員増員・確保に取り組む。 (目標450名正、賛助、後援会員)	①会員拡大委員会の設置 ②協会紹介パンフレットの改訂 ③イベント等参加団体・者への会員案内・勧誘 ④各新聞社・関係団体の広報媒体の活用 ⑤理事、会員との交流の機会を設ける	①会員の高齢化もあり、年々会員が減少している。会員拡大委員会の設置が急務である。 ②③協会紹介のパンフレットを2009年度末に改訂した。イベント等で団体・グループ・会員案内。(幸せの黄色いレシートキャンペーン・各イベントで随時配布) ④新聞社・関係団体の広報媒体の活用。 ⑤理事、会員との交流の機会を設けるために総会後の交流会(講座等)を設けている。連携の強化に努める。
運営体制の整備	継続	通年	・ボランティアと協調しつつ、迅速効率的な事務執行体制を築く。	①新公益法人移行事務体制の強化と、迅速な事務遂行 ②事務局体制の整備 ③理事、ボランティアスタッフ、事務局員との連携の強化 ④ボランティアスタッフ研修会の実施 ⑤評価・調査事業の管理・運営体制の整備(再掲) ⑥ボランティアコーディネート事業体制の整備(再掲)	①新公益社団法人認定申請の為、京都府の説明会・個別相談会に参加。全事業の公益目的は困難であり、公益目的比率を高める事業を展開する。(決算報告終了後申請) ②新事務局長就任5月。パート職員2名採用したが一身上の都合により退職。2011年度は臨時のアルバイトで対応。 ③理事、ボランティアスタッフ、事務局との意見交換・交流会を設けた。さらに連携の強化に努める ④ねこのてさろんの事業(再掲)2011年は講座等を増やし、一般・会員の参加を増やす。 ⑤継続のボランティアスタッフにボランティア保険の費用は協会負担(2011年分に充当)
ボランティアビューローの管理・運営	継続	通年	・場の有効な管理運営を目指す。	①利用状況の把握・管理 ②広報物の掲示・整理	①りすの会・お誕生日ありがとう京都友の会・NPOインホープ等の団体が交流の場として頻りに利用されている。当協会行事(ねこのてさろん・祭・発送業務・企画委員会・評価事業の審査会)も利用している。他の団体・一般にも声をかけさらに輪を広げたい。 ②広報物の展示の呼びかけをし、整理に心がけている。
財源の確保	継続	通年	・財源確保による安定的事業運営	①助成金の確保 ②ボランティア団体賠償保険の加入勧誘 ③会員拡大	①京都府地域再生力、京都共同募金会、京都府生命保険協会、京都新聞福祉事業団、国際ソロプチミスト京都、京都橘ライオンズクラブ、会員、一般等からの寄付。 ②他の団体・グループにも声をかけ、交流の場を設け、万一事故があった場合に備え、加入勧誘を進める。 ③公益社団法人認定をめざし、公益性のある事業を展開し会員を拡大する。

				<p style="text-align: center;">一 般 寄 付</p> <p>京都橋ライオンズクラブ 京都府生命保険協会 国際ソロプチミスト京都</p> <p>阿部秀樹 宇理須典子 羽瀨芳子 岡田佳子 岡本民夫 鎌光新治 丸清木材(株) 岩城光江 京都語り部の会 山崎孝江 山本賢治 季刊ボラ はぐくみ募金</p> <p>小川嘉代子 小谷節子 松井三千 松岡幸代 松本淳子 松本明子 西田靖子 村上安子 谷村喜子 鳥羽幸代 藤本守 平野昭子 匿名3名</p>	<p style="text-align: center;">きょうボラふれあい祭寄付</p> <p>京都新聞社会福祉事業団 京都府共同募金会 経系の会 ウイスマンバー 木戸枝子 小川喜代子 花園道心太鼓 加藤博史 古川善紹 匿名2名</p> <p style="text-align: right;">(順不同・敬称略)</p>	
--	--	--	--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--



# 理事会開催状況

2010年度

回数	日程	主な議案・協議事項
第110回	5/11	2009年度事業報告案・決算報告案について・監査報告
第1回総会	5/30	2009年事業報告・収支決算承認される 公益法人移行関係について
第111回	6/14	2010年度事業担当理事・所属委員会の担当理事の割振りについて 2010年度顧問・相談役の選出について
第112回	10/4	公益社団法人か一般社団法人の移行申請を本年度中に検討・準備について
第113回	3/1	補正予算案・事業計画案・予算案確認・公益法人移行関係について
第2回総会	3/26	補正予算案・事業計画案・予算案承認される 公益社団法人認定申請について

## \*新公益法人制度への移行関連会議等 (2008年12月5日法施行)

—新法についての説明会参加状況—

7/30	新公益法人制度改革に関する説明会(京都府職員福利厚生センター) 認定申請書類作成に係る注意点
9/4	新公益法人制度改革に係る個別相談(京都府職員福利厚生センター) ～ボランティアの参画を無償の役務・公益比率と収支相賞が公益申請のチェックポイント。
11/29	新公益法人制度改革に関する説明会(京都府職員福利厚生センター) 認定申請書類作成に係る注意点
12/10	新公益法人制度改革に係る個別相談(京都府職員福利厚生センター) ～公益目的の事業率・公益社団法人の定款の内容確認について～
1/11、1/13	新公益法人制度改革に関する説明会(京都府職員福利厚生センター) ～移行認定の申請書類作成の注意点～移行申請に向けた準備
3/16	新公益法人制度改革に係る個別相談(京都府職員福利厚生センター) ～公益目的の事業率・遊休財産額の保有制限等について～

・公益法人認定に向けた取組み

公益社団法人申請の定款の作成・申請書類作成の取組

2010年度カレンダー

4月 3日 (土)	ねこのてさろん年間行事打合せ	10月 1～3日 (金)	共同募金・街頭募金実施 みやこめっせ「地域再生コラボちらし配り」参加
4月 4日 (日)	ねこのてさろん「花見交流会」	10月 11日 (日)	菊浜運動会
4月 11日 (日)	ウエス大徳寺ミニバザー 北大路ピタリ黄色レシートキャンペーン・贈呈式	10月 17日 (日)	社協 フェスタ「祭ちらし配り」参加
4月 14日 (水)	福祉大会 市社協運営委員会	10月 19日 (火)	防災訓練「ひと・まち交流館 京都」
4月 21日 (水)	共同募金配分伝達式	10月 20日 (水)	祭当日ボランティア説明会
4月 24日 (金)	第4回きょうボラふれあい祭準備会	10月 21日 (木)	「終の棲家」講座開催・祭第5回実行委員会
5月 1日 (土)	ひと・まち交流館 京都・大会議室抽選会	10月 23日 (土)	ねこのてさろん「ハッピーキュー」友愛の丘
5月 7日 (木)	情報の公表調査員アンケートの実施	10月 24日 (日)	ねこのてさろん「ハッピーキュー」友愛の丘
5月 13日 (木)	華頂短大生9名(引率・多賀先生)見学	10月 25日 (月)	菊浜学区協議
5月 22日 (土)	ねこのてさろん 第6回祭準備委員会	10月 30日 (木)	祭当日ボランティア説明会
5月 25日 (火)	立命館大学ボランティアネットワーク	11月 6日 (土)	第6回 祭実行委員会
5月 26日 (水)	後援会員企業挨拶廻り	11月 7日 (日)	第9コンサートホール祭ちらし配り
5月 30日 (日)	2010年第1回「通常総会交流会	11月 9日 (火)	京都橋ライオンズクラブ寄付贈呈式
5月 31日 (月)	「情報の公表」第3者評価師」 説明会出席(ハートピア)	11月 13日 (土)	祭最終打合せ18:30～
6月 1日 (火)	立命館大学ボランティアネットワーク	11月 16日 (火)	防災訓練放送確認
6月 10日 (木)	府民力再生個別説明会	11月 21日 (日)	第4回きょうボラふれあい祭当日
6月 12日 (土)	祭準備委員会	11月 23日 (火)	企画運営委員会
6月 16日 (水)	京都府社会福祉会「地域密着型協議会」	11月 27日 (土)	ねこのてさろん開催
6月 18日 (金)	6月14日理事会振替	12月 4日 (土)	「あきらめない認知症パートナー2」講座開催
6月 20日 (日)	障害者スポーツ大会開催参加	12月 5日 (日)	菊浜学区防災訓練
6月 26日 (土)	ねこのてさろん開催・第1回祭実行委員会 ミゼナリ発送・ボランティア参加	12月 25日 (土)	ねこのてさろん開催「クリスマス会」
7月 9日 (金)	「食の講座」研修会 社会福祉会館	1月 11日 (火)	立命イオンタウン報告会
7月 19日 (月)	ねこのてさろん(でてこいランド「夏祭り」)	1月 22日 (土)	ねこのてさろん開催・祭振返りの会
7月 24日 (土)	ねこのてさろん開催 第2回実行委員会祭参加団体説明会	2月 6日 (日)	ねこのてさろん「料理体験交流会」
7月 25日 (日)	調査員交流会・社会福祉会館	2月 18日 (金)	史跡高槻市ボラ連絡会
7月 28日 (水)	祭参加団体説明会	2月 20日 (日)	企画委員会会議
7月 29日 (木)	京都国民祭	2月 21日 (月)	情報の公表・第三者評価説明会
7月 30日 (金)	情報の公表調査関連連絡会議	2月 26日 (土)	ねこのてさろん開催 「音楽講座ってなあに」ミニ講座
8月 2日 (月)	地域密着型外部評価師研修会(新入舎) 京都障害者芸術祭実行委員会総会	3月 18日 (金)	評価事業実施委員会
8月 10日 (火)	調査企画委員会	3月 26日 (土)	2010年第2回通常総会 講座
8月 28日 (土)	ねこのてさろん開催 第3回実行委員会祭参加団体説明会		
8月 29日 (日)	経糸の会 助成金授与式		
8月 31日 (火)	祭協賛団体説明会		
9月 10日 (金)	京都府社会福祉大会		
9月 11日 (金)	北大路ピタリ黄色レシートキャンペーン ふれあい雑巾授与式		
9月 14日 (火)	テルサ福祉大会		
9月 22日 (水)	研修会 社会福祉会館		
9月 25日 (土)	ねこのてさろん開催・第4回祭実行委員会		

## 定例的な作業・会議

- ・幸せの黄色いハビシートキャンペーン：毎月11日
- ・ウエス作業：毎月第2・4木曜日
- ・ひと・まち交流館 京都共同管理委員会：毎月最終木曜日
- ・事務局会議：第2火曜日

## 【京都ボランティア協会所属委員会】

- 京都府犯罪被害者支援連絡協議会委員
- 京都府犯罪のない安心・安全まちづくり推進本部会議委員
- 京都府市民参画会議委員
- 京都府福祉のまちづくり推進協議会委員
- 京都府福祉細植移転協議会委員
- 京都府血液幹細胞移植対策連絡協議会委員
- 京都府精神障害者福祉審議会委員
- 京都府高齢者サービス総合調整推進会議委員
- 京都府道づくり検討委員会
- 京都府福祉協議会理事
- 京都府福祉協議会評議委員
- 京都府福祉協議会評議委員
- 京都府福祉ボランティアセンター運営委員
- 京都府障害者スポーツ振興会顧問
- 京都市アジェンダ21フォーラム幹事会委員
- 京都市ごみ減量推進会議理事
- 京都市エースサービス協会評議員委員
- 京都市障害者スポーツセンター評議員委員
- 京都介護・福祉第三者評価等支援機構委員

2010年度

1. ボランティア相談について 総合計

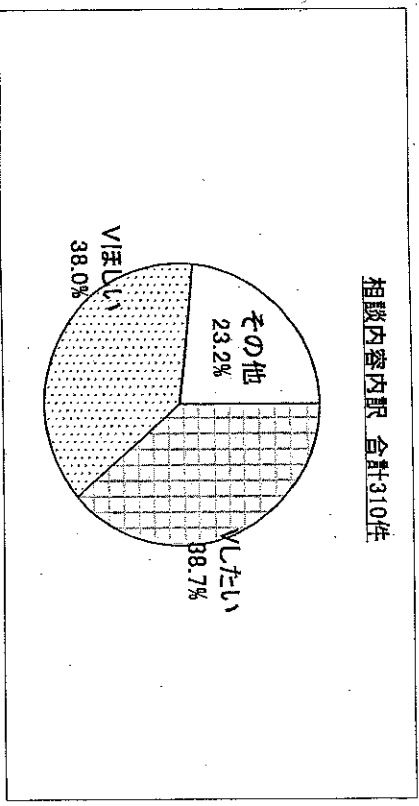
310件(昨年度は382件)

〈2010年4月1日～2011年3月31日〉

ボランティア相談からコーディネートは始まる。相談の内訳をまとめた。

その他の相談が72件・・・バザーやウエスなどの物品提供、広報依頼・団体検索等が多い。

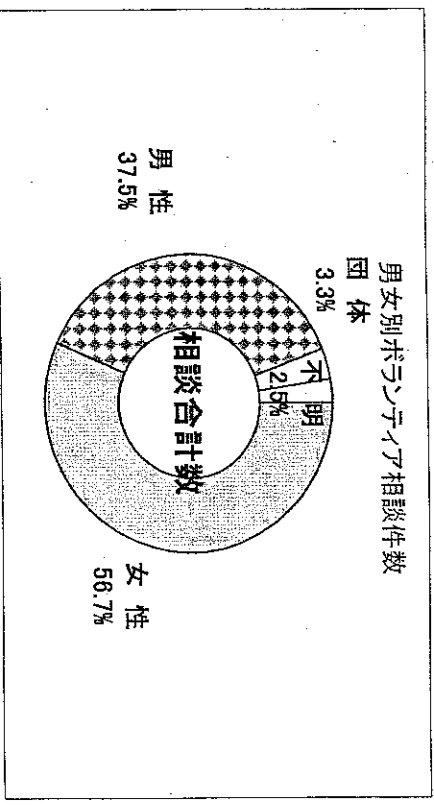
	合計	09合計
Vしたい	120	178
Vほしい	118	105
その他	72	99
計	310	382



2. Vしたい相談

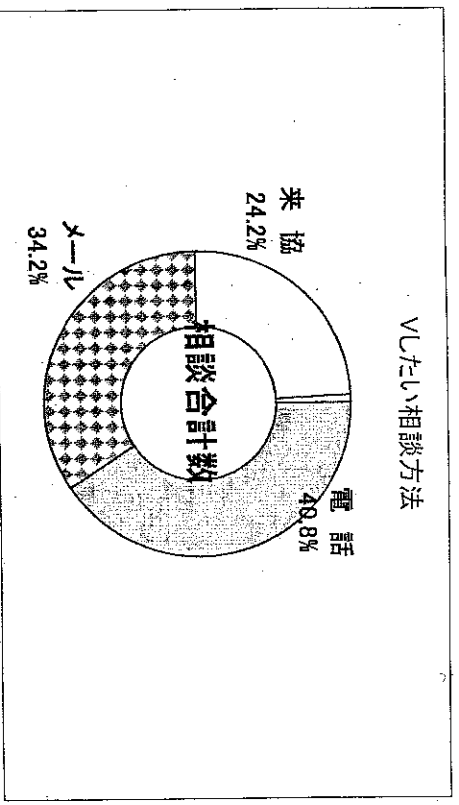
2-1 男女別

	合計	09合計
女性	68	112
男性	45	53
団体	4	11
不明	3	2
計	120	178



2-2 相談方法

	合計	09合計
電話	49	75
メール	41	54
来協	29	48
その他	1	1
計	120	178

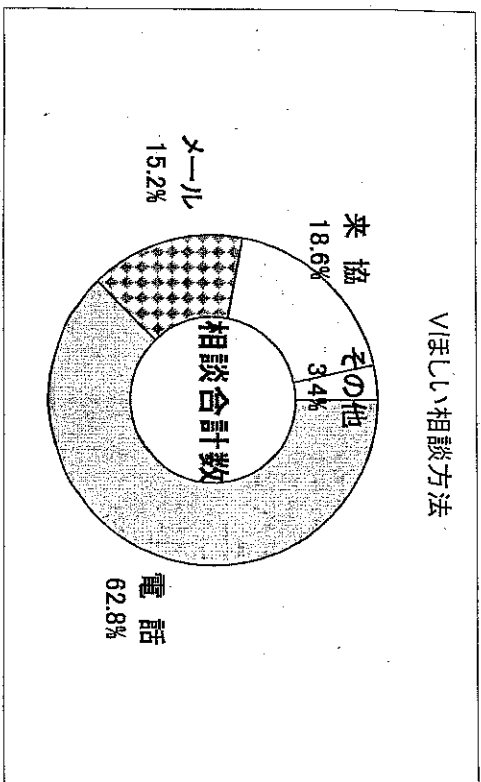


※ボランティアしたい相談から実際に新規のボランティア登録に結びついたのは39.1%(47件の登録)

### 3. V/ほしい相談

#### 3-1 相談方法

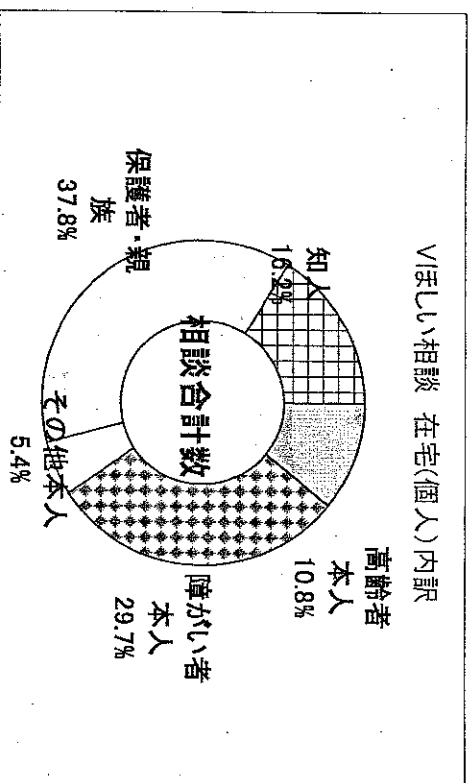
	合計	09合計
電話	74	72
メール	18	7
来協	22	25
その他	4	1
計	118	105



※ボランティアほしい相談からボランティア依頼となったのは59.1%(62件の新規依頼)

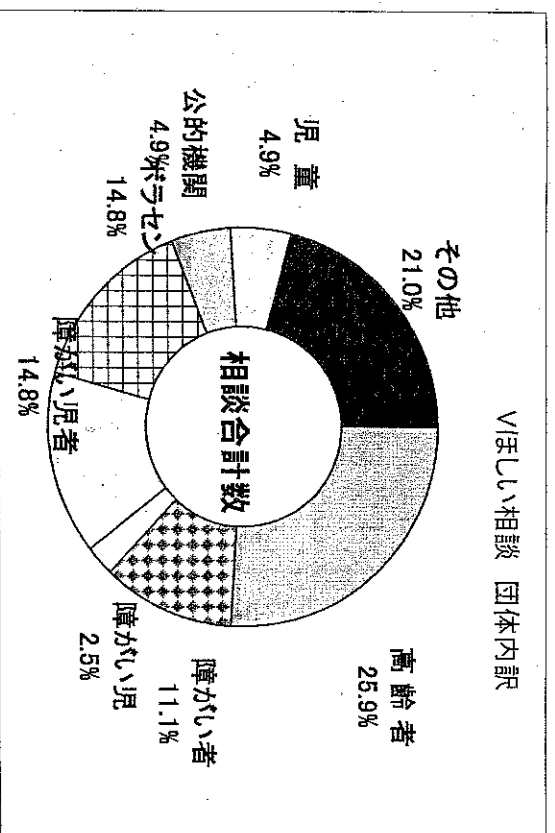
#### 3-2-① V/ほしい相談中 在宅(個人)内訳

	合計	09合計	
本人	高齢者	4	2
	障がい者	11	5
	その他	2	3
保護者・親族	14	6	
知人	6	7	
計	37	23	



#### 3-2-② V/ほしい相談中 団体内訳

	合計	09合計
高齢者	21	22
障がい者	9	13
障がい児	2	7
障がい児者	12	7
ボランティア	12	15
公的機関	4	4
医療機関	0	0
児童	4	5
その他	17	9
計	81	82



注1)団体内訳にはNPO、任意団体関係なくカウントしている。

2010年度

II. ボランティア活動希望者について

総合計

175人

〈2010年4月1日～2011年3月31日〉

：2009年度統計

統計表1 性別

総数	女性	男性	団体
184	108	76	0
175	94	81	0
内新規登録者	25	22	0

統計表2 所属

	学生	勤労者	フリーター	無職	その他	団体	総数
女性	10年度 18	41	1	33	0	0	93
09年度	27	48	3	35	0	0	108
男性	10年度 12	33	4	27	5	1	82
09年度	14	29	5	24	4	0	76
小計	10年度 30	74	5	60	5	1	175
09年度	41	72	8	59	4	0	184

【学生内訳】

	10年度	09年度
大学	27	36
短大	0	1
専門学校	3	4
高校生	0	0
不明	0	0
その他	0	0
合計	30	41

統計表3 年代

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	不明	総数
女性	10年度 4	28	22	14	10	14	2	0	94
09年度	4	42	23	13	10	14	2	0	108
男性	10年度 0	26	15	15	6	13	6	0	81
09年度	1	24	12	12	6	18	4	0	76
小計	10年度 4	54	37	29	16	27	8	0	175
09年度	5	66	35	25	16	27	19	0	184

※事業参加分のボランティアは除いています(きょうボラふれあい祭など)。

統計表4 地域別ボランティア希望者受付

	10年度	09年度
北 区	11	11
左 京 区	20	22
上 京 区	15	10
中 京 区	15	18
下 京 区	12	14
右 京 区	18	15
西 京 区	5	9
東 山 区	7	9
山 科 区	13	10
南 区	7	9
伏見区	28	32
市内不明	0	0
小 計	151	153
府 内	16	24
府 外	8	7
合 計	175	184

登録ボランティア 175人中

2009年度

活動人数(紹介人数) 100人(うち新規V活動28人)

113人

そのうち単発の活動参加 30人

72人

協会での活動0回の人 106人

112人

※6割の人が協会への依頼ケースのボランティア活動はしていない。

しかし、祭や協会内での活動に41人が参加している。

特徴

①登録者男女比が半々。社会人が中心で学生は減少傾向が続いている。

②無職60人・専業主婦(夫)12人・定年退職26人・求(休)職16人

2010年度

Ⅲ. ボランティアの応募求む  
 <2010年4月1日～2011年3月31日>

総合計

113件

113件

2009年度統計

統計表1A～Dの調整に

おける対応回数について

対応回数合計	依頼者との対応回数	ボランティアとの対応回数
訪問・来 協回数	TEL・ メール等 訪問・来 協回数	TEL・ メール等 訪問・来 協回数
377	1929	133
2305	946	813
		244
		1116
	1360	
2337	879	1458

(注)対応回数とは電話やメールのやりとり・訪問・来協などの回数のこと

統計表2

依頼者について	依頼者について	クライアントの住む地域									
		障がい児	障がい者	高齢者	児童	他	市内				
区分	個人	団体	障がい児	障がい者	高齢者	児童	他 <td>市内</td> <td>府内</td> <td>府外</td> <td></td>	市内	府内	府外	
総数	113	86	28	20	39	3	7	104	3	6	113
	113	77	36	24	35	3	8	107	3	3	113
A	72	72	14	28	28	1	1	73	2	1	148
	72	72	17	22	29	3	1	70	1	1	13
B	13	13	2	6	5	0	0	11	0	2	10
	5	5	0	3	1	0	1	5	0	0	6
C	10	10	4	1	2	2	0	6	0	0	10
	14	14	4	2	4	4	1	14	1	1	18
D	18	18	0	4	4	3	2	14	1	3	18
	22	22	3	8	1	2	5	18	1	2	18

※統計表の説明

A	在宅(個人)継続ケース
B	在宅(個人)単発ケース
C	施設・ボランティア等の継続ケース
D	施設・ボランティア等々の単発ケース

統計表3 地域別依頼受付数

北 区	8	10
在 京 区	13	13
上 京 区	5	7
中 京 区	8	12
下 京 区	14	9
右 京 区	15	14
西 京 区	15	11
東 山 区	2	5
山 科 区	8	9
南 区	7	6
伏見区	9	11
小 計	104	107
府 内	3	3
府 外	6	3
合 計	113	113

統計表4

受理後の処理について

区分	総数	処理内容							
		1.V紹介(内団体等紹介)				2.V紹介できず			
		1.V紹介	2.V紹介	3.V紹介して終了	4.Gや回 体紹介	5.制度・地 機関紹介	6.募集 きず終	7.中止	8.その他
総数	113	66	15	3	66	21	35	12	
A	72	40	15	57	0	21	12	6	1
	72	15	20	20	0	19	10	8	5
B	14	10	0	3	0	1	0	1	3
	5	0	3	0	0	1	0	1	0
C	9	3	0	0	0	2	3	0	2
	14	1	8	0	0	2	3	0	0
D	18	13	0	0	0	1	2	0	2
	22	1	18	0	0	1	2	0	0

113

- 1.V紹介:1人でもボランティアを紹介した、あるいは継続しているボランティアがいる依頼
- 2.V紹介できず:1人も紹介できなかった依頼
- 3.その他:依頼者からのキャンセル、依頼者の死去など

統計表5 依頼者区分別

	障がい児		障がい者		障がい児者		高齢者		児童		その他		合計	
	在宅	団体	在宅	団体	在宅	団体	在宅	団体	在宅	団体	在宅	団体		
5			48		6		29		0		12		100	
24	35			3		36		8		7				
在宅	0	28	20		6		14		15		9	0	12	
5													113	
17	7	25	10		0		30		6		3	5		5

統計表6 ボランティア紹介数

	在宅(個人)						団体						合計	
	障がい児	障がい者	高齢者	児童	その他	小計	障がい児	障がい者	高齢者	児童	その他	小計		
4月	0	5	1	0	0	6	0	0	1	7	0	0	8	14
5月	1	3	0	0	0	4	0	0	2	0	0	2	10	14
6月	1	2	0	0	0	3	0	0	3	0	0	1	4	7
7月	0	3	3	0	0	6	0	0	1	0	0	1	7	7
8月	1	2	2	0	0	5	0	3	0	0	0	3	8	8
9月	0	4	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	4	8
10月	0	1	2	0	0	3	0	0	0	0	0	2	2	5
11月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	6	6
12月	0	0	1	0	0	1	0	3	0	1	0	2	6	7
1月	1	5	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	4	10
2月	1	2	2	0	0	5	0	0	0	0	0	5	5	10
3月	0	1	3	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	4
計	5	28	14	0	0	47	0	20	6	15	0	12	53	100

統計表7 依頼内容

	話し相手 遊び相手 保育 その他	在宅		団体		合計	
		10年度	09年度	10年度	09年度	10年度	09年度
生活 介助	その他	3	1	3	1	6	2
	通学・通院	22	14	0	0	22	14
	行楽・観光	2	3	4	2	6	5
外出 介助	余暇・趣味	25	25	0	0	25	25
	その他	1	1	0	0	1	1
	家庭教師等	2	2	0	0	2	2
技能 提供	レク	0	0	0	2	0	2
	その他	11	6	1	4	12	10
行事 援助			0	16	20	16	20
	メンバー募集		0	4	6	4	6
合 計		124	140	35	43	159	150

注1) 身体介助、食事・トイレ・入浴介助以外に体に触れるものも含む

注2) 余暇・趣味: 買物、コンサート、映画、散歩など

注3) 依頼内容が重複するため合計数が依頼件数より多くなっている。

たとえば、一人の依頼内容で、自宅での話し相手や遊び相手に加えて、外出するようなケース。

→趣味援助(絵画、パソコン、俳句、犬の散歩など)  
技能提供と重なる部分もある。

→高齢者の通院付添い増加、通園通学。

→身近な買物、散歩などの外出。

→家庭教師依頼。

→パソコン、絵画、囲碁、手芸など。



(別紙 2-1)

## 事業報告書

団体名	社団法人京都ボランティア協会
事業名	第4回きょうぼうふれあい祭 ～もっと広がり 笑顔の「わ」～
【具体的な活動内容】	(事業の趣旨、実施日時、場所、参加者の状況、事業内容等)
日時	2010年11月21日(日) 10時～16時
場所	ひと・まち交流館 京都 全館(京都市下京区)
趣旨	「ともに生き ともに学び ともに進もう」をテーマにボランティア活動啓発・推進に取り組んでいる協会の「異業種交流」の場であり、地域への発信の機会とする。特に今回は「居場所」をテーマに祭り全体、地域全体に笑顔が増える祭りにする。
事業内容	①市場(模擬店含む)・ワークショップ・PRコーナー・・・参加団体 27
②ステージ・・・参加団体 14、③抽選会、④バザー、⑤子ども広場、⑥スタンブラリー、⑦ボランティア相談コーナー(③から⑦までは協会企画)	
目新しい企画は、⑥のスタンブラリーで、「ひと・まち交流館 京都」館内のセンターの協力を得て、「ひと・まち交流館 京都」自体と京都ボランティア協会、参加団体と僅かではあるがふれあうチャンスを作った。また、地元下京区の近隣学区を中心に新規に市場やステージへの参加が得られ、交流ができた。	
参加者の状況	参加人数目標は昨年度までの「みやこめっせ」より少ない1000人とした。当日は天候にも恵まれ、地元を中心に1400人超の人達が来場、年齢層は高かったがなじみの人達のステージ発表や模擬店、スタンブラリーに参加する姿があった。ハンデイのある人達や子どもたちが一緒にスタンブラリーに興じていた。大会議室でのステージ前などにもお客さんが賑やかに集っていた。
【活動の成果】	(今回の事業を通じてうまれた連携や地域での活動の拡がり、気づいた点など)
当協会が「ひと・まち交流館 京都」に事務所を移転して8年、第4回目の祭りでお隣元である下京区で開催することにより、下京区社協始めとする地元学区の人達には、広報や備品の借り受け、グラウンド利用に関して大変な協力を得ることができた。下京区内の団体のステージや市場への参加も得られ、新たな活動を知ってもらう機会となった。地元へは広報だけでなく組織団体から様々な協力を得ることができた。	
また、スタンブラリー企画への賛同団体とは、この機会を捉え「ひと・まち交流館 京都」や参加団体自体を知っていただくことにも繋がりが、小さなふれあいであったかもしれないが、「ひと・まち交流館 京都」を全く知らない人達を含め館内を回っていただくことができた。来場者アンケートの37%程の人達が「初めて来た」と回答があり、「ひと・まち交流館 京都」も居場所の一つと考えれば、一般市民に知っていた大きく機会となり、祭りが貢献できた部分である。	
ボランティアスタッフは、昨年までの当日ボランティアがスタッフの仲間入りを果たし、2、3の参加団体とは祭り以外でも互いのイベントに参加し少しずつ交流することができた。今後も年齢層やハンデイの有無に関わらず、参加しやすいイベント、気軽に訪れることのできる「居場所」の一つを目指したい。	
ただ、勤労者ばかりのボランティアスタッフで、事務負担が多くなっているように思われる。	

## 平成22年度 研修会実績

	研修会名・テーマ	講師 (敬称略)	日時	場所	対象者	参加数
1	”食”について —高齢、障害、認知症などの介護の場—	金子 みどり 笹井 めぐみ	7月9日(金) PM1時～	京都社会福祉会館 3F	一般・全調査員	69名
2	「情報の公表」平成22年度説明会		7月11日(日) PM1時～	ひと・まち交流館 2F	「情報の公表」調査員	17名
3	懇親交流会		7月25日(日) PM5時～	京都社会福祉会館 1F	全調査員	22名
4	外部評価調査員研修勉強会	小林 治子	8月7日(土) 8月8日(日)	ひと・まち交流館 地下	「外部評価」調査員	14名
5	上記欠席者に対する伝達研修勉強会	小谷 節子	8月中旬	ひと・まち交流館	「外部評価」調査員	3名
6	介護事業所見学・研修会	宅老所・悠遊庵 代表 平木 妙子	8月30日(月)	奈良県 西大寺	全調査員	8名
7	—介護の場でのリスクマネジメント— ”身体拘束”について	稲葉 裕二 京都ひまわり園 施設長	9月22日(水) PM6時～	京都社会福祉会館 2F	全調査員	17名
8	—高齢者住宅・ホームの見方・選び方— ”終の棲家”	長嶺 堅二郎 代表 CSネット企画	10月21日(木) PM1時30分～	京都社会福祉会館 3F	一般・全調査員	28名
9	介護事業所見学・研修会	サンライフたきの里 見学担当 東 部長	11月5日(金)	石川県 加賀市	全調査員	5名
10	—原因疾患から医療と介護を考える— あきらめない認知症ケア・パートⅡ	森 俊夫 京都府立洛南病院 診療部長	12月4日(土) 1時30分～	京都社会福祉会館 ホール	一般・全調査員	220名

### 『養成研修参加者』

	【外部評価】新人養成研修受講者		7月～8月 4回	奈良 他 実地研修	村尾・松岡・隅垣・永山・ 大川・松本・日比野・藤田	8名
	【第三者評価】介護サービス 養成研修		9月～11月 4回		大川・奥・大前	3名
	【第三者評価】介護サービス フォローアップ		平成23年2月		福本・小林聡・松岡・村尾・ 松本淳	5名
	【第三者評価】福祉サービス 養成研修	【障害・保育分野】のみ	平成22年12月～ 平成23年2月			0名
	【第三者評価】福祉サービス フォローアップ	【障害分野】	11月 1回		福本・松岡・奥・小谷	4名